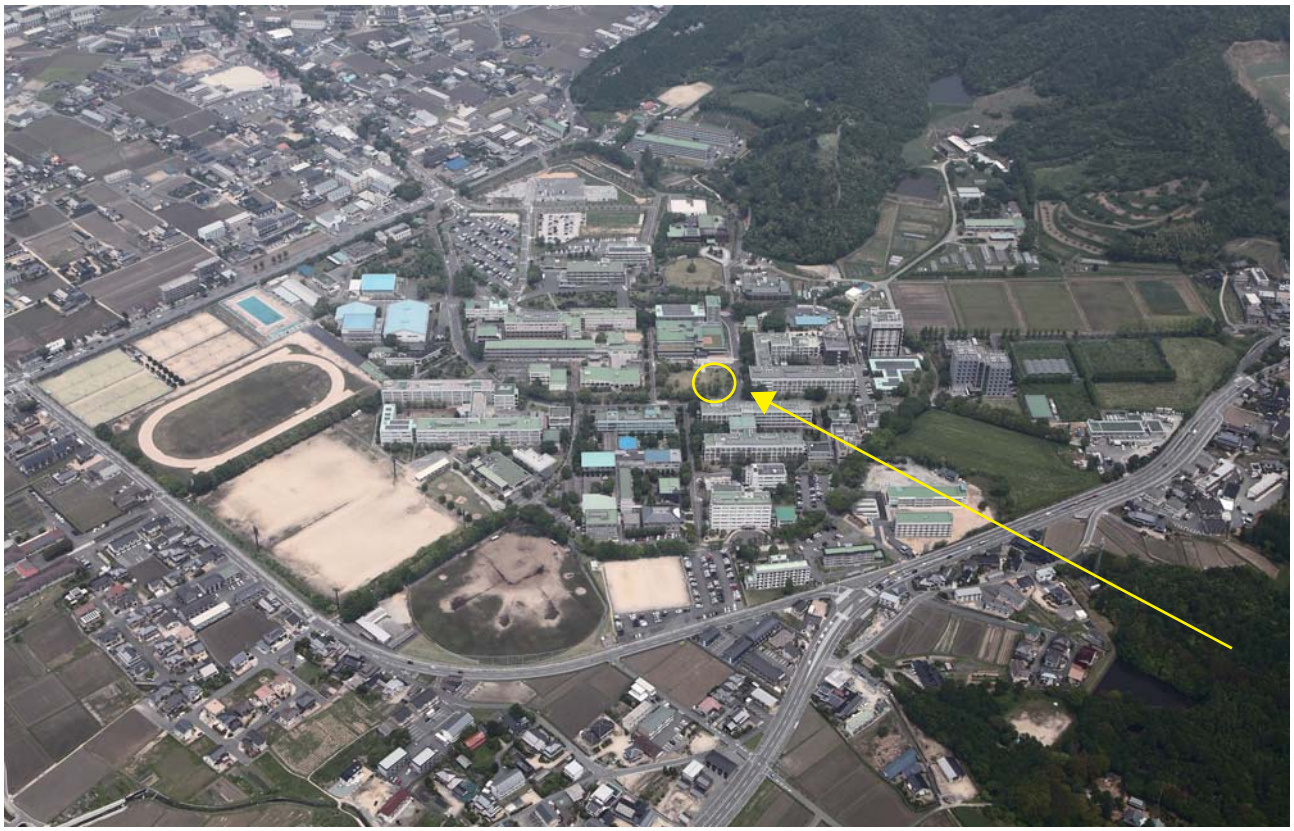
吉田遺跡
現地説明会資料

平成30年７月28日（土）
10:00～11:00



山口大学吉田キャンパス（南上空から：2015 年）

山口大学埋蔵文化財資料館

吉田遺跡とは

山口盆地を北東－南西に流れる椹野川の左岸に位置する遺跡で、約72万㎡におよぶ山口大学吉田キャンパスの範囲にほぼ一致する遺跡です（裏表紙参照）。

昭和の初期、まだこの近辺が一面の田畑であった頃、現在の大学キャンパス内やその周辺地域でしばしば土器や石器などが発見されていたことから、古くより遺跡の存在が推測されてきました。

これまでの発掘調査や絵図などの古記録から、吉田の地は室町時代以降農村化が進み、江戸時代から山口大学の吉田キャンパスの設立まで、ほぼその姿を変えずに農村として維持されていたことから、遺跡は大きな破壊から免れてきたのです。

写真1　昭和 40 年（1965）山口市吉田地区（統合移転前）

吉田遺跡の調査

このような状況下で、この地で最初に発掘調査がおこなわれたのは、各地に散在していた山口大学各学部の吉田地区への統合移転がきっかけとなりました。昭和41年(1966)から始まったキャンパスの造成工事や建物建設で、土の中から多量の土器や石器が発見されたのです。

遺跡破壊の危機に直面し、山口大学は学長を団長とし、学内外の関係学問分野の研究者を調査員とした「山口大学吉田遺跡調査団」を結成し、昭和42年(1967)から統合移転が完了する昭和48年(1973)まで発掘調査をおこないました。

その結果、吉田キャンパスのほぼ全域から遺構や遺物が発見され、吉田遺跡が縄文時代晩期から江戸時代まで集落を営み続ける県内でも有数の複合遺跡（複数の時代にまたがる遺跡）であることが判明しました。

また、確認された遺構群の中でも特に歴史的価値が高いと判断された第1学生食堂南西側の集落群は、「遺跡保存地区」として保存・活用されることも決定されました。

写真2　山口大学吉田遺跡調査団による発掘調査風景
昭和 42 年（1967）現サッカー場の調査

埋蔵文化財資料館の設立

その後、昭和52年(1977)には吉田遺跡を中心とする考古資料の収蔵庫として埋蔵文化財資料館が設立されました。昭和54年(1979)には、構内遺跡の調査・研究をを担当するため教員1名が配置され、以降現在まで継続して構内の埋蔵文化財保護業務を行っています。当館の継続的な調査により、吉田遺跡では時代によって集落域を移動させていることなどが判明しています。

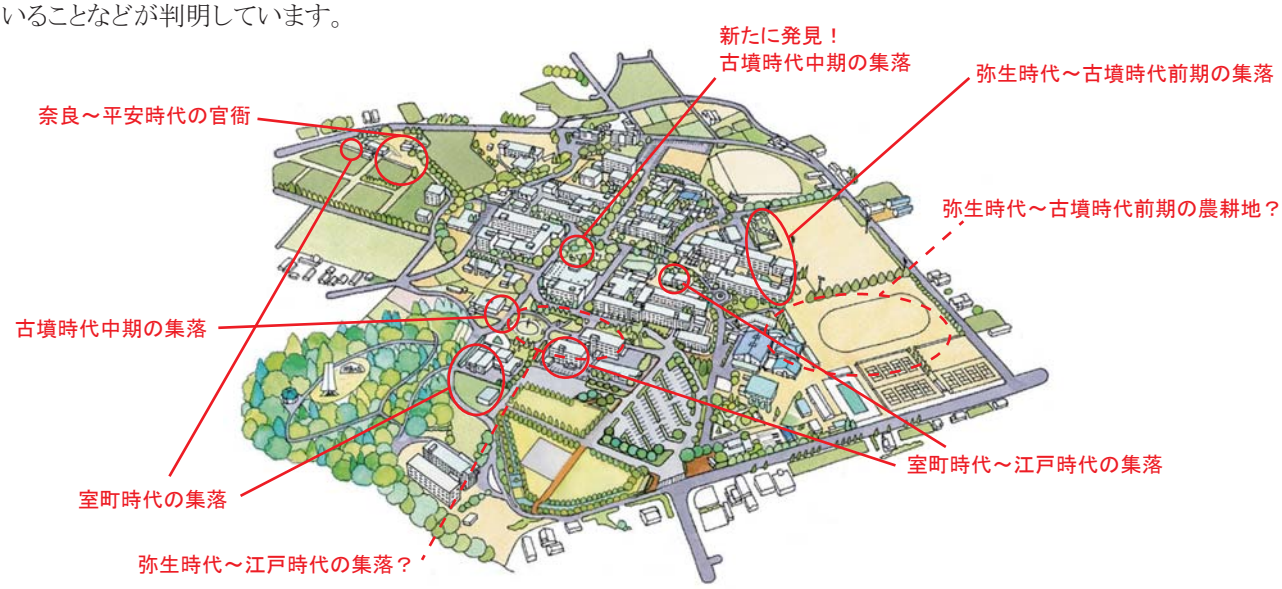


図1　吉田遺跡の集落分布域

今回の発掘調査の経緯

吉田キャンパスの真ん中には、「中央広場」と呼ばれる芝生広場があります。本学の吉田地区への統合移転以降、平成18年(2006)までは長らく噴水プールのある公園として、平成18年度以降は駐輪場、芝生公園と姿を変えながら、学生や教職員の憩いの空間として親しまれてきました。

平成29年11月に至り、当地に福利厚生施設(山口大学生活協同組合建物)の新営が計画されたことを受け、平成30年1月15日より予備発掘調査を実施しました。

調査の結果、現地表よりおよそ1m下に、竪穴式住居跡の可能性がある大型方形遺構や柱穴、溝状遺構など、多数の遺構が存在していることが明らかとなり、出土遺物から、古墳時代の集落址である可能性が高いことが判明しました。

中央公園の北に隣接する総合図書館では、平成24年度に実施した3号館増築工事に伴う発掘調査にて、弥生時代から鎌倉時代にかけての多量の土器が投棄された東－西方向の自然河川を確認しました。これらの遺物は、河川の右岸部、総合図書館の北に位置する丘陵(大学会館前庭部＝遺跡保存地区や第2学生食堂敷地)上に集落を営んだ人々が投棄したと推定されますが、自然河川の左岸部については、総合図書館1号館や農学部校舎、理学部校舎などが未調査のまま建設されたため、地下の様相が不明のまま今日に至りました。

予備発掘調査の結果は、当館にとって衝撃的な内容でした。この貴重な遺構群を保護するべく、ただちに関係部局や山口大学生協に施設の設計や建設位置の変更を求めましたが、本学当局の強い意志により、計画通りに開発を実施することが決定され、2月22日より、本発掘調査に切り替え、開発全域(約1,100㎡)を対象に調査を実施することになりました。

調査の成果

図書館3号館の調査に続き、当調査区においても、調査区南西端部にて南東から北西に流れる河川を検出しました。このことから、当調査区は南東から北西に延びる尾根上にあたることが判明しました。

本学移転前は水田であったことが写真記録等から明らかとなっていますが、調査の結果、1枚の大きな水田が以前は棚田であったこと、水田を構築する際に旧地形が大きく改変され、遺構の上部は大きく削平されていることなどが分かりました。

そのような状況下で、幸運にも竪穴住居跡4棟をはじめ、多数のピット(柱穴)や土壙(どこう:大きい穴)、風倒木(ふうとうぼく:風などの影響で根から倒れた木)の痕跡等を確認することができました。

竪穴住居跡に関しては、出土した土器を見る限りでは、時期に大差はなく、いずれも古墳時代中期(5世紀)前半から中ごろのものと推定されます。また、4号竪穴住居跡からは、山口県内でも珍しい「初期須恵器」と呼ばれる時期の須恵器高坏(たかつき:脚付きの器)とハソウが出土しています。

写真 3 予備発掘調査の模様（北から）
平成 30 年 1 月 31 日撮影

写真 4 予備発掘調査で確認された竪穴住居跡の
一部と見られる大型方形遺構（1号竪穴住居跡）（西から）
平成 30 年 1 月 31 日撮影

写真 5 本発掘調査重機掘削の模様（北から）
平成 30 年 3 月 13 日撮影

写真 6 本発掘調査にて検出された遺構群（北から）
平成 30 年 5 月 12 日撮影

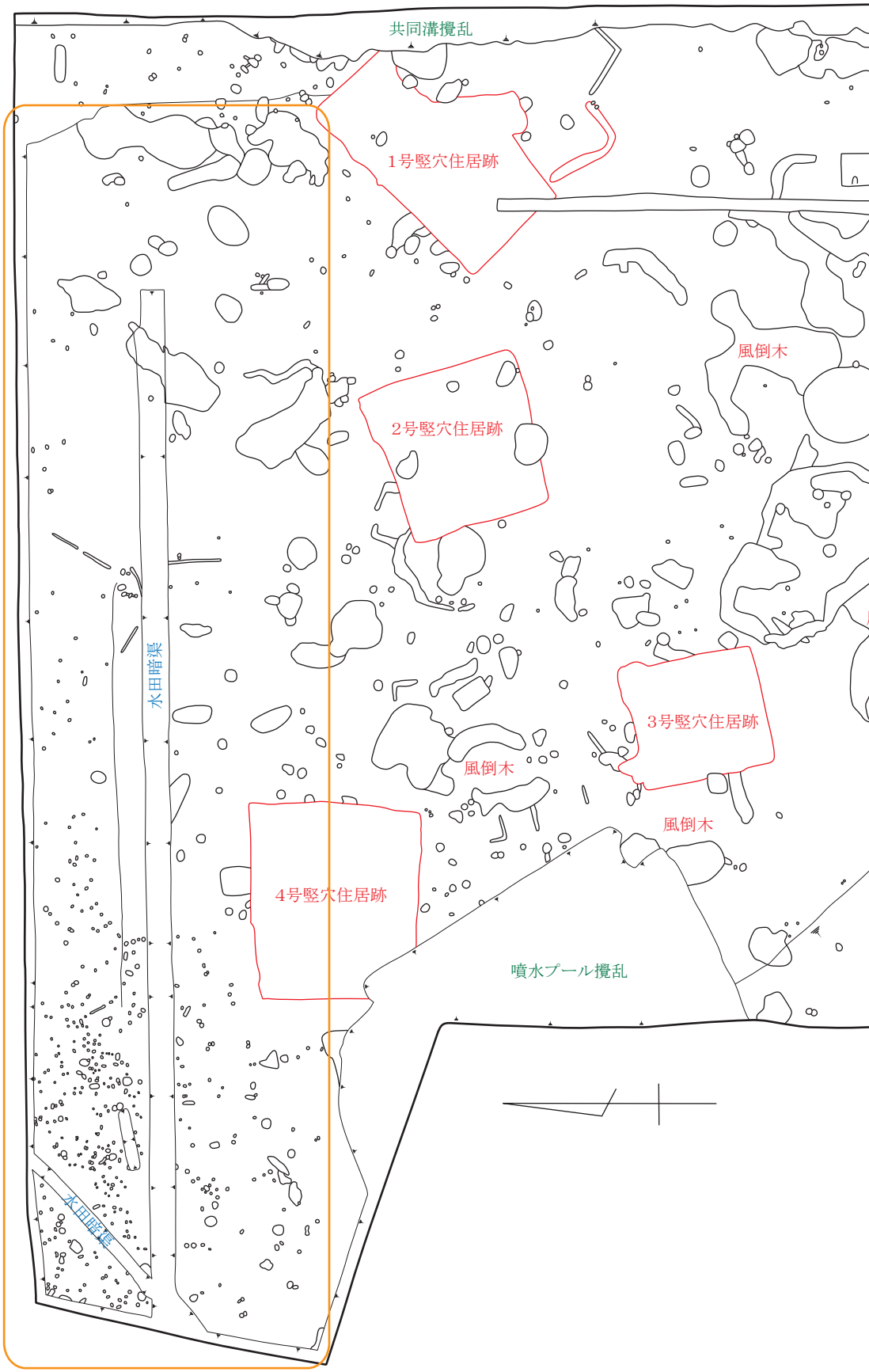
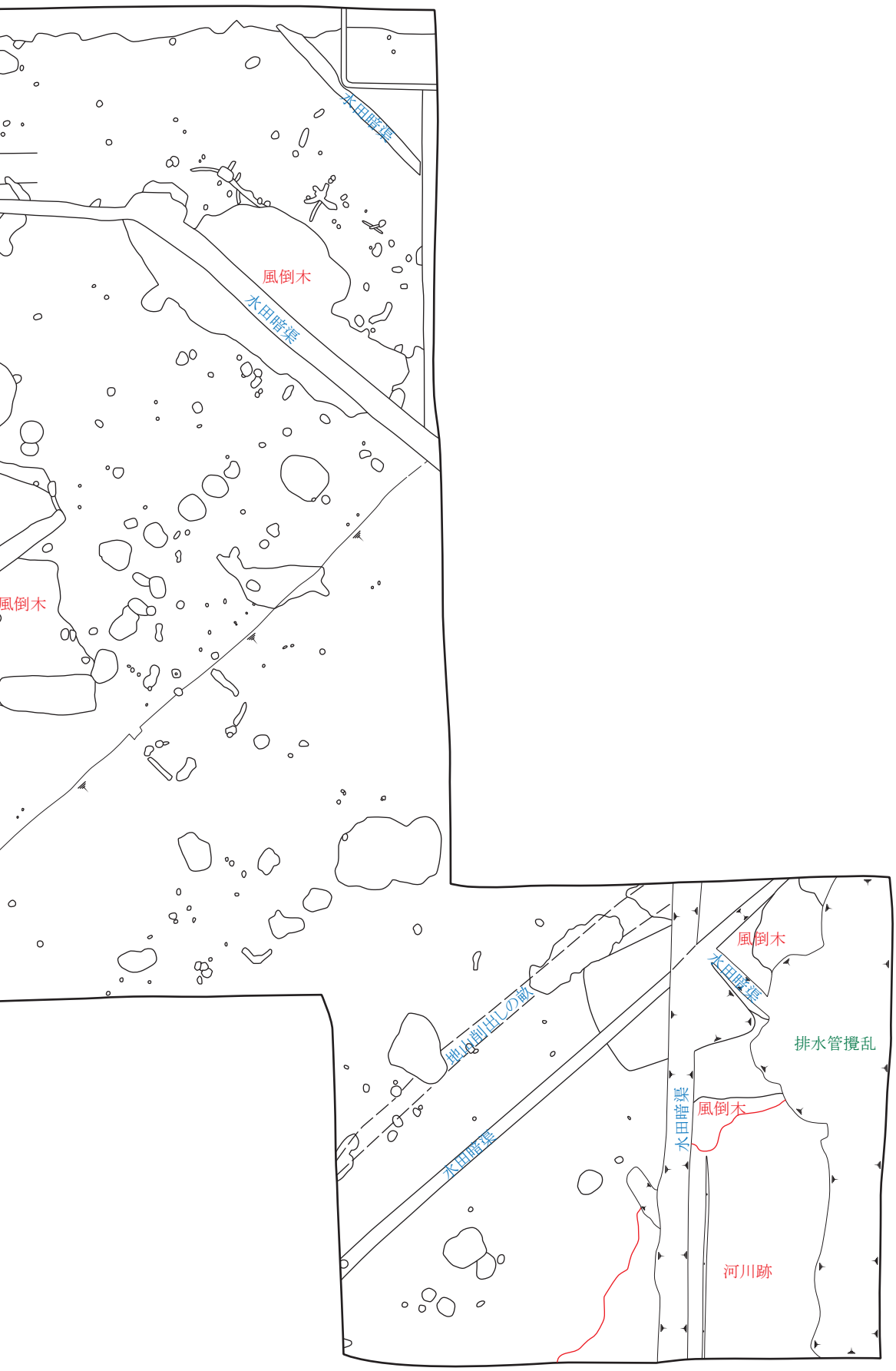

共同溝攪乱
1号竪穴住居跡
2号竪穴住居跡
3号竪穴住居跡
4号竪穴住居跡
風倒木
風倒木
風倒木
水田暗渠
水田暗渠
噴水プール攪乱
上層遺構
0
5
10m
(1/150)

図2　遺構



平面略図

写真７　1号竪穴住居跡（南東から）

【1号竪穴住居跡】
規　　模：北西－南東（3m99 ㎝）北東－南西5m74 ㎝
出土遺物：土師器（甕・高坏など）
所属時期：古墳時代中期（5世紀）前半～中ごろ

写真８　2号竪穴住居跡（南から）

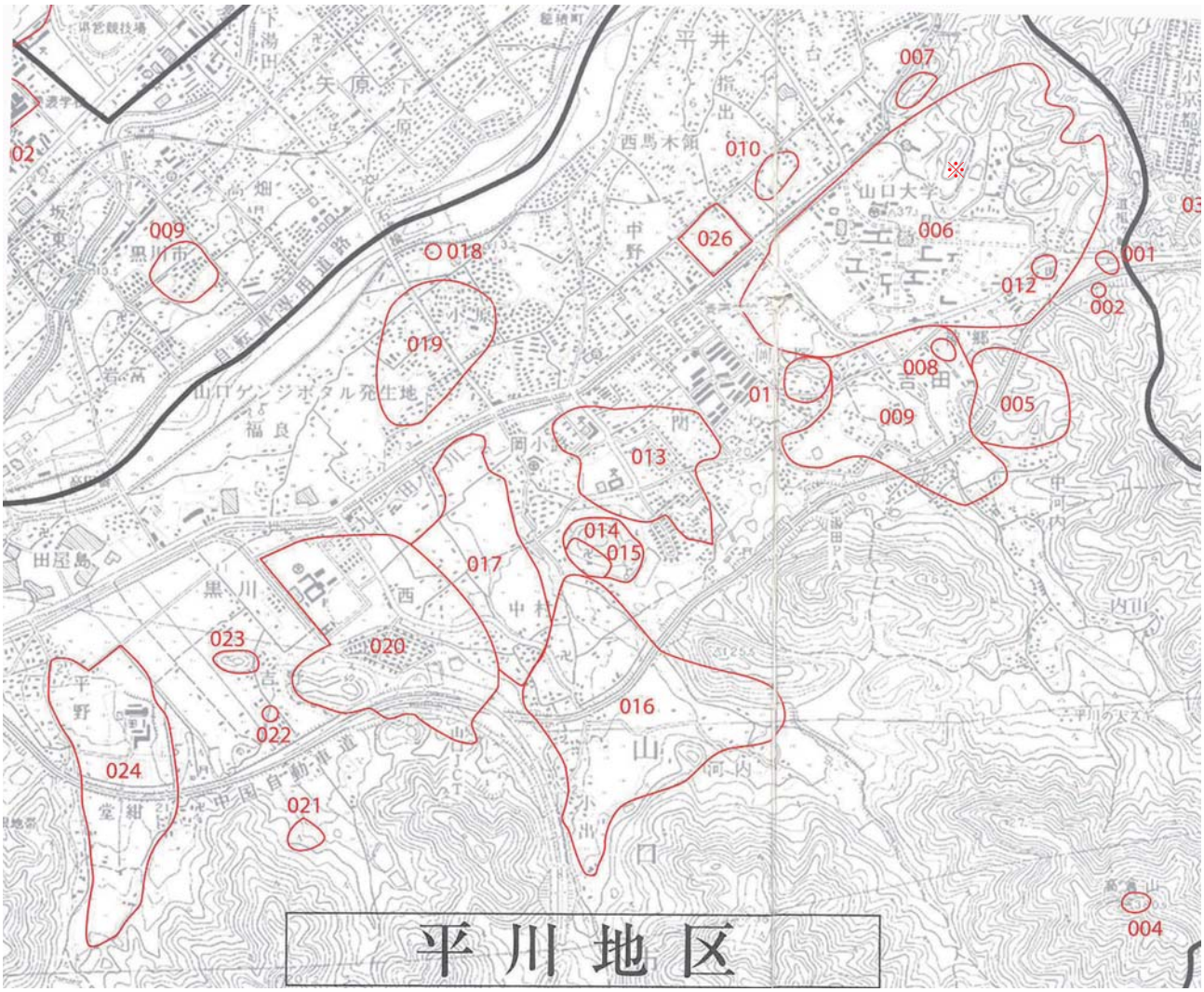
【2号竪穴住居跡】
規　　模：東西4m5 ㎝　南北4m42 ㎝
出土遺物：土師器片（甕・高坏など）
所属時期：古墳時代中期（5世紀）前半～中ごろ

写真 9　3号竪穴住居跡（西から）

【3号竪穴住居跡】
規　　模：東西3m22 ㎝）南北3m30 ㎝
出土遺物：土師器（甕・高坏・直口壺など）
所属時期：古墳時代中期（5世紀）前半～中ごろ

写真 10　4号竪穴住居跡（南西から）

【4号竪穴住居跡】
規　　模：東西4m90 ㎝　南北4m27 ㎝
出土遺物：土師器（甕・高坏など）・須恵器（高坏・ハソウ）
所属時期：古墳時代中期（5世紀）前半～中ごろ



『山口市埋蔵文化財地図』 山口市教育委員会　2009　より

0　100m (1/2,500)

001　吉田大浴遺跡（中世）
002　大浴古墳（古墳）
003　長谷古墳（古墳）
004　高倉荒神遺跡（中世？）
005　乗ノ尾石棺群（弥生？・中世）
006　吉田遺跡（旧石器～近世）
007　日吉（神社横穴）古墳群（古墳）
008　平清水石棺（古墳）
009　神郷大塚遺跡（弥生～中世）
010　欠番
011 上両家遺跡・大塚古墳（古墳？）
012　馬木遺跡（古墳）
013　小路遺跡（縄文～中世）
014　泉香寺山遺跡（古代～中世）
015　広沢寺古墳群（古墳）
016　小出遺跡（中世）
017　岡小路遺跡（古墳～中世）
018　欠番
019　小原遺跡（中世）
020　西遺跡（縄文～中世）
021　平川山田遺跡（中世？）
022　吉野遺跡（散布地・古墳？）
023　堂山古墳群（古墳）
024　堂道遺跡（旧石器・弥生～中世）
025　四十九ガ原遺跡（中世？）
026　沖遺跡（中世）
※　吉田もり山横穴墓（古墳）